



だいぶ
第2部

わ か や ま ま な
和歌山を学ぶ
わ か や ま あ そ
和歌山で遊ぶ



ようこそ、和歌山へ！

日本は、47の行政区画に分けられているが、和歌山県は、日本のほぼ中央、最大の半島である紀伊半島の南西側を占める県である。半島の南部には温暖で雨の多い深い山地が広がり、紀ノ川、有田川、日高川、熊野川など、何本もの川が、西と南の海に流れ込んでいる。美しい森と山と海岸に恵まれた、自然豊かな県である。

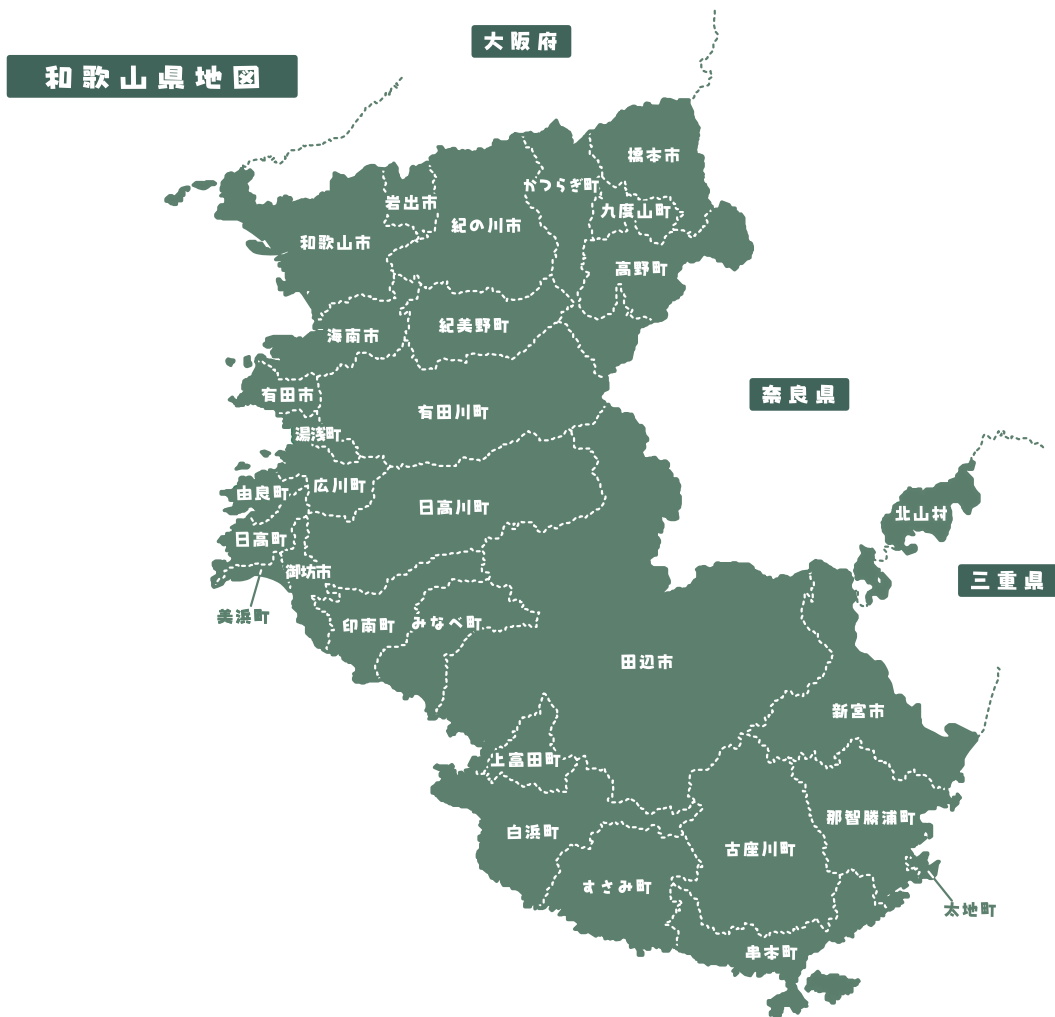
最大の川である紀の川は、県の北部を西に流れ、その河口に、県庁のある和歌山市が位置している。和歌山大学は、和歌山市の北部、大阪府との県境にすぐ近い高台にあって、キャンパスから南に、和歌山市街とその先の海が見晴らせる。北に峠を越えると大阪府で、関西空港や大阪府に1時間かからない。

和歌山県の人口は、20世紀の終わりに100万人を越えたが、その後は、日本全体の傾向で人口減少に転じ、2021年4月現在は91万7千人程度である（令和2年4月1日「和歌山県人口調査」結果より）。

紀伊半島南部に広く深い山地を抱える和歌山県の地勢によって、和歌山県の市街地は、和歌山市から東に、紀の川市、岩出市、橋本市、と続く、紀ノ川沿いの地域と、和歌山市南隣の海南市から、有田市、御坊市、田辺市と南下し、そして太平洋に突き出した半島南端の串本町を東側にまわって、熊野川河口の新宮市と海岸線に沿った地域と、に限定されている。鉄道も、大阪とは3本の線でつながっているが、他は、紀ノ川沿いと海岸沿いの線に限られている。

第2部で取り上げるように、和歌山は古い歴史をもち、和歌山市は、中世から近世には日本有数の都市となり、近代のはじめには、繊維産業を中心にした工業都市となった。しかし自然豊かな和歌山は、その後、大企業の工場が立地したり地場産業も発展したが、県全体としては、大規模

工業化を軸とする近代化とは別の道を歩んだ。生産量日本一のみかんや梅により「果樹王国」といわれる農業や農産物、さらに水産業、林業といった、豊かな自然に支えられた産業が重要な産業となっており、近年では、観光にも力をいれている。



画像提供1-3：公益社団法人和歌山県観光連盟

せかいいさん 世界遺産

きいさんち れいじょう さんけいどう 紀伊山地の霊場と参詣道

古代の都、京都、奈良の南に広がる紀伊、熊野は、海と山と森の美しさと霊的な雰囲気によって、古くから知られた地域であった。人々が列をなして巡礼に向かった「熊野三山」、有名な僧空海が山中に開いた「高野山」、厳しい山岳修行で知られる「吉野・大峰山」。これらの霊場と参詣に向かう巡礼道は、「紀伊山地の霊場と参詣道」として、2004年に、ユネスコ世界遺産に登録された。

きい くまの ■紀伊・熊野

奈良盆地を都として日本の国が形を整えられていった古代、都の南に広がる森林豊かな「木国」は「紀伊国」と名づけられ、さらに都から遠い南部地域は「熊野」と呼ばれたが、「紀伊国」は、多少の増減がありつつ、熊野も含んで、近世の「紀州藩」、近代の「和歌山県」に受け継がれていった。今も、「紀伊半島」や「紀の川」など、地名や駅名などに、「紀伊」「紀」が多く使われている。

くまの しんこう ■熊野信仰

深い森林におおわれた紀伊山地は、古い時代から神々の住む聖域と考えられ、険しい山地で修行する山岳宗教の場ともなった。仏教が伝わると、熊野川の中流と河口に建てられた三つの神社、熊野三山は、神道と仏教の融合した独特の信仰の場となる。大峰山は今も、高野山も近年まで、女性の立ち入りを拒んで来たが、熊野三山は、女性を含むすべての人に開かれ、熊野信仰は全国に広がっていく。

くまの こうどう ■熊野古道

熊野は、天皇族の祖先神話でも重要な土地であり、古代の後半から、皇族が大規模な熊野詣を繰り返すようになった。それに伴い、参詣に向かう道が整備され、街道沿いに九十九王子と呼ばれる神祠が置かれた。熊野参詣は、皇族貴族だけではなく庶民の間にも広がり、全国各地で参詣団体が組織され熊野を目指し、「蟻の熊野詣」と呼ばれるほど盛んになる。今も、古い参詣道、「熊野古道」は、多くの人々を呼び寄せている。

へいあんぶつきょう こうかい

■平安仏教と空海

古来、日本列島では多くの自然神が信仰されていたが、奈良盆地に天皇族を中心とする全国的な政権ができると、大陸から朝鮮半島経由で仏教が伝わり、国家宗教となって、大寺院や大仏が建造される。その後、都が京都に移ると、新しい仏教が求められ、共に中国に渡った僧最澄と空海が、最新の仏教理論を持ち帰って、それぞれ宗派をたてた。高野山は、空海が開いた寺院都市である。

こうやさん

■高野山

空海は、天皇の庇護を受けて、高野山の山中に金剛峯寺を建てたが、以後、高野山には寺院が増え、一大宗教都市となっていく。森林の中の奥の院には今なお空海がいるとされ、無数の墓地や貴重な仏像を蔵する寺院、さらには大学もあり、宿坊と呼ばれる、宿泊できる寺院が点在している。かつては修行の場として女性の入山を拒んでいたが、現在はケーブルカーや自動車道が整備され、誰もが宿坊で仏教体験ができる。



画像提供1-4：公益社団法人和歌山県観光連盟

2 古典文学・古典芸能

— わかのうら どうじょうじ 和歌浦と道成寺 —

漢字の伝来によって、日本の文字文化が開花する。奈良時代、歴史書が作られ、和歌が生まれ、景色に優れた紀伊では、「和歌浦」をはじめ、多くの歌が詠まれる。続く平安時代には、国風(和風)文化の展開の中で生まれた「かな」を使って随筆や日記が書かれ、物語が書き留められる。和歌山の道成寺に伝わる物語も、『今昔物語集』などに収録され、その後、能や歌舞伎などの有名な演目となって受け継がれてゆく。

■ 万葉の歌枕、紀伊国

奈良地方に都があった古代、南に広がる紀伊の国の美しい山と海の景色は、都の貴人たちの旅心を誘った。奈良の都から紀伊国を訪れた天皇や貴族たちは、紀の川に沿って西に進んで海に出会い、海岸沿いに旅をし、牟呂の湯(白浜温泉)で休み、それぞれの土地の風景に寄せて歌を詠んだ。奈良時代の末期に成立したとみられる現存最古の歌集『万葉集』には、和歌山の各地で作られた歌が、百数十首も入っている。

■ 和歌の聖地、和歌浦

中でも有名な歌は、天皇の一行が、紀の川の河口若浦を訪れた時、歌人の山部赤人が詠んだ歌である。「若浦に潮満ちくれば瀉をなみ芦辺をさして鶴鳴き渡る」。潮が満ちつつある干瀉の空を鶴が飛ぶ美しい風景が歌われた地は、いま公園として整備され、「万葉記念館」が建てられている。平安時代の歌人紀貫之が、『古今和歌集』でこの歌を称賛し、「若浦」は和歌の聖地として「和歌浦」と呼ばれることになる。

■ 「安珍・清姫伝説」と道成寺

安珍・清姫伝説とは、和歌山県日高川町にある道成寺にまつわる伝説であり、「道成寺縁起」とも呼ばれる。若い僧の安珍に恋をした清姫が、約束を破った僧のあとを追いかけて、恨み、怒りのあまり蛇体に変じて、寺の鐘の中に逃げこんだ僧を鐘もろともに焼き殺してしまうという内容で、能、歌舞伎、浄瑠璃などさまざまな題材にされてきた。

道成寺は701年に建てられ、和歌山県内で最も古い寺である。道成寺所蔵の『道成寺縁起物語絵巻』は、重要文化財に指定されている。また、道成寺の僧侶が安珍と清姫の絵巻物を見せながら絵解き説法を行っており、参詣者に仏教の教えを伝えている。

のう ■能

能は室町時代の観阿弥、世阿弥父子が完成させたもので、能舞台で能面を用いて演じられる踊りと歌と音楽が一緒になった演劇で、狂言と密接な関係を持っている。狂言は仕草と台詞によって演じられる喜劇で、能と狂言を一括して「能楽」とよぶ。今も日本の代表的な伝統芸能として演じられ、ユネスコの無形文化遺産に登録されている。能と狂言は14世紀から現代まで演じ継がれていて、世界でもっとも長い演劇生命と伝統をもっている。

かぶき ■歌舞伎

歌舞伎は、音楽、踊、芝居がひとつになった、戦国時代から400年以上の歴史をもつ日本の伝統芸能である。派手な服装や常識外れの行を表す「傾(かぶ)く」という言葉が由来で、江戸時代の初めに、出雲の阿国という女性が演じた「かぶき踊り」が始まりとされている。そこから遊女歌舞伎、若集歌舞伎が流行してゆくが、風俗を乱すと幕府に禁じられ、やがて、男性の専門役者が女性を演じる「歌舞伎」が生まれた。今では昔から上演されてきた演目だけでなく、現代の技術や漫画などの物語を取り入れた新しい作品も上演され、多くの人を楽しませている。



画像提供1-5：公益社団法人和歌山県観光連盟

3 最後の共和国

ねごろしゅう さいかしゅう — 根来衆と雑賀衆 —

戦国時代の終わりに日本を訪れたポルトガル人宣教師のルイス・フロイスは、紀伊国には、「大なる共和国的存在」があり、「いかなる戦争によっても滅ぼすことができなかつた」と紹介している。それら、紀州惣国一揆と呼ばれる、寺院や農民の自治共和国は、全国統一を目指す織田信長、豊臣秀吉に最後まで抵抗するが、遂に秀吉の紀州攻めにより壊滅する。中世最後の共和国の敗北とともに、時代は近世へと向かうことになる。

■ 紀州の共和国

古代の天皇と貴族による全国支配を終わらせ、新時代を開いたのは、各地で力を付けた武士集団だった。中世は、自分の力に頼る時代である。武士だけでなく、寺院も武装し、農民もしばしば団結して圧政に抵抗した。古代の国家仏教とは異なり、民衆に支えられた仏教が生まれ、農民の団結の軸となった。やがて有力な武士(大名)が領国を支配し、全国統一を争う戦国時代を迎えるが、紀伊では、一国を支配する大名が生まれなかつた。

■ 根来衆

高野山は、高野衆と呼ばれる僧兵集団を擁していたが、高野山から分かれた根来寺も、紀の川沿いの広大な谷に多くの寺院・屋敷を抱えた一大宗教都市を形成していた。広大な寺領をもち、根来衆とよばれる僧兵は、強力な鉄砲隊で知られる。豊臣秀吉の紀州攻めでは、高野山は降伏勧告に応じるが、根来寺は炎上する。現在は、周辺が史跡として整備され、残っている国宝の大塔や大門に、往時の栄華をしのぶことができる。

■ 雑賀惣国

現在の和歌山市付近には雑賀惣国があった。5組に分かれて、それぞれ自治的なつながりをもっていた。雑賀衆は、海運や貿易による高い経済力を背景に、強力な海軍力と鉄砲力に優れ、雑賀鉄砲衆と根来鉄砲衆は、質量ともに戦国時代随一の鉄砲隊として知られる。傭兵としても活躍し、織田信長が、全国統一を目指して、宗教的結束によって抵抗する本願寺を攻めた際には、雑賀衆は、信仰を同じくする本願寺を支援して信長と戦った。

秀吉の紀州攻め

全国統一支配を目指す信長にとって、本願寺と結ぶ雑賀衆は強力な敵だった。信長は、「自治共和国」ともいえる紀州の寺社勢力や惣国一揆勢力を、大軍を動員して攻めるが、多大な損害を受けて退却する。しかし、1585年、信長の後をついだ秀吉が、6万の軍勢で紀伊国に侵攻すると、秀吉軍の前に、高野山は降伏し、根来寺は炎上。雑賀惣国も、内部対立もあって敗北し、一部の残党が、現JR和歌山駅東側にあった太田城に立てこもる。

刀狩り 兵農分離

秀吉軍は、紀南も制圧した後、雑賀残党が籠城する太田城を囲み、城の周りに長大な堤防を築いて、水量豊かな紀の川の水を入れ水攻めにする。太田城は、1か月あまり抵抗したが遂に降伏。平定された紀伊一国は、秀吉の弟、羽柴秀長に与えられる。秀吉は「刀狩り」令を出し、以後、百姓の武器所持を禁じる。兵農分離の意図を示す一番早い史料である。こうして、「最後の共和国」と共に、自力救済の中世が終わる。



総光寺由来并太田城水貞図 (和歌山市立博物館所蔵)

画像提供1: 公益社団法人和歌山県観光連盟 2: 孫市の会

4 しょうぐん そだ わ か やまじょう 将軍が育った和歌山城

和歌山市の中央、堀と石垣で守られた山上に、天守閣がそびえている。和歌山城である。秀吉から紀州を与えられた秀長が築城を開始した城は、場所の地名である岡山と、景勝地和歌の浦とを合わせて「和歌山城」と命名され、これが和歌山という地名の始まりとなる。その後城は、徳川家に受け継がれ、明治維新で役目を終えるが、公園として整備され、戦争で炎上した天守閣も再現されて、春には桜の花に包まれ、大勢の市民を集める。



きしゅうはん

■紀州藩

戦国時代の最終勝者となった徳川家康は、江戸(現在の東京)に武士政権を開く。以後、各藩を治める武家を徳川将軍がまとめる、安定した政治体制が、おおむね平和に続く。和歌山城には、一時期浅野家が入るが、経済都市大阪と政治都市江戸を結ぶ海上交通路に面する紀伊国を重視した家康は、紀伊と熊野を合わせた紀州藩を作って我が子を藩主とする。以後、明治維新まで、和歌山城は徳川家の居城、藩庁として機能する。

ごさんけ よしむね

■御三家と吉宗

家康の血統を受けた紀州徳川家は、将軍家を支える「御三家」と位置付けられ、7代将軍の血統が途絶えたため、紀州徳川家の藩主吉宗が8代将軍に就く。将軍となった吉宗は、「享保の改革」を行って、幕府の体制を立て直す。ただ、数々の行政改革とともに、率先して節制に努めて財政再建を行ったが、米への課税に支えられた財政と貨幣経済の進展という、近世幕藩体制の構造的矛盾は以後も続く。

わかやまじょうこうえん

■和歌山城公園

和歌山城は、1945年の空襲により、石垣、堀の他、岡口門と土堀、追廻門以外が破壊され炎上した。戦後、天守閣が現代工法で再建され、一の橋、大手門、御橋廊下も再現された。西の丸には池泉廻遊式庭園の紅葉溪があり、茶室も建てられて気軽にお茶席を楽しむこともできる。城跡として現存しているのは最盛期の4分の1ほどの面積であるが、城郭内は国史跡に指定され、日本城郭協会から日本100名城に認定されている。

■城下町 和歌山

当初、和歌山城の正門(大手門)は、城郭南東にある現在の岡口門で、東に古代以来の日前宮と熊野街道、西に水運拠点の紀湊という場所に立地して、城南に寺町や武家屋敷が配置された。その後、現在の一の橋側が大手門となり、北に本町筋が整備され、城下町が発展していった。近代を迎えて和歌山市となり、「南海の工業地」とよばれるほどの大都市となって賑わったが、他の地方都市同様、中心部の衰退問題に直面している。



画像提供1,3:公益社団法人和歌山県観光連盟 2,4:個人撮影

5 わかやま げいじゅつ か 和歌山の芸術家たち

和歌山県は古くから芸術文化の栄えた地域であったため、様々な文学作品や美術作品が生まれた。多くの和歌山県出身の芸術家の中から、大正・昭和・平成に活躍した作家や画家を紹介する。

■佐藤 春夫 [1892 - 1964]

新宮市出身の詩人、小説家、評論家。1910年、中学卒業と同時に上京し、慶應義塾大学予科文学部に入るが、のちに中退。雑誌「三田文学」「スバル」などに詩歌を発表していたが、やがて短編小説「西班牙犬の家」(1917)や『田園の憂鬱』(1919)、『お絹とその兄弟』(1919)、『美しき町』(1920)などを次々に発表し、たちまち新進流行作家となり、芥川龍之介と並んで時代を担う2大作家と目されるようになった。



新宮市立佐藤春夫記念館所蔵

■有吉 佐和子 [1931 - 1984]

和歌山市出身の作家。伝統的な芸の世界と近代的な教養の世界との鮮かな対照を描いた短編『地唄』(1956)が芥川賞の候補作となって文壇デビューを果たす。母方の故郷紀州を舞台に、自身の家系をモデルに三代の女性を描いた『紀ノ川』(1959)や『助左衛門四代記』(1962～1963)、『華岡青洲の妻』(1966)などの歴史小説にもすぐれた作品がある。この間、アメリカ留学から帰国後、人種問題を扱った『非色』(1963～1964)を発表、国内外に取材におもむき精力的な活動を続け、作風も次第に社会性を強めた。『恍惚の人』(1972)は老人問題に一石を投じる問題作として注目を集めた。



和歌山市立有吉佐和子記念館提供

なかがみ けんじ

■中上 健次 [1946 - 1992]

しんぐう ししゅつしん しやうせつ か こうこう じ だいい しやうせつ か ほじ そつぎやう
新宮市出身の小説家。高校時代より小説を書き始め、卒業
ご じやうきやう どうじん し ぶんげいしゆ と さん か じゆきゆうさい ち ず
後上京し同人誌「芸芸首都」に参加。『十九歳の地図』(1974)
で注目を浴びた。『岬』(1976)で芥川賞を受賞。故郷の紀州熊
の ふうど はいけい ふくごつ けつえんかんけい い にんげん ちゆうしん
野の風土を背景として複雑な血縁関係に生きる人間を中心
えが みんぞく ものがたり さべつ もんだい ついきゆう だいはうさく みさき
に描き、民俗、物語、差別などの問題を追究した。代表作に『岬』
(1976)、『枯木灘』(1977)、『千年の愉楽』(1982)、『地の果て至
じやう とき かんぞうがん さい た かい
上の時』(1983)などがある。肝臓癌のため46歳で他界した。

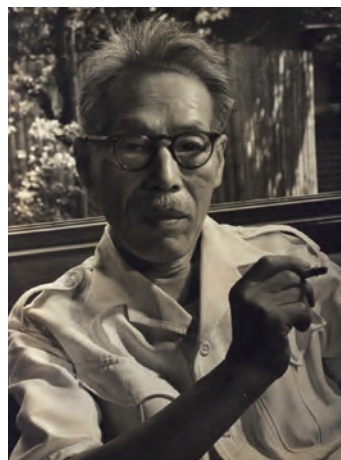


中上健次顕彰会所蔵

かわばたり ゆうし

■川端 龍子 [1885 - 1966]

わ か や ま し しゅつしん に ほん が か はいじん さい じやうきやう わん
和歌山市出身の日本画家、俳人。11歳のとき上京。1904年
ちゆうがっこう ちゆうたい しよう が けんきゆうじや しよう が まな ざっし さしえ が
中学校を中退し、洋画研究所で洋画を学んだ。雑誌の挿絵描
き こくみんしんぶんしや きん む せいけい た さい
きや国民新聞社での勤務で生計を立てていたが、28歳のと
き べいさき びじゆつかん み に ほん こ び じゆつ かんめい
き渡米先のボストン美術館で観た日本の古美術に感銘をう
け、帰国後日本画に転向。洋風描写をとり入れた筆致を生か
し ほん が だん い さい はな だいはうさく なる と しんじゆ
し日本画壇に異彩を放った。代表作に《鳴門》(1924)、《真珠》
(1931)、《新樹の曲》(1932)、《潮騒》(1937)などがある。また、
しんじゆ きやく しおさい
俳句に親しみ句集を出した。



大田区立龍子記念館所蔵

いしがき えいたろう

■石垣 栄太郎 [1893 - 1958]

たい じ ちやうしゅつしん しよう が か と べい ちちおや
太地町出身の洋画家。渡米していた父親によばれ、1909
ねん さい わた ろうどう
年、16歳のときアメリカに渡る。労働しながらカリフォルニ
ア美術学校やニューヨークの画家ジョン・スローンの教室で
まな しゃかいしゆぎ かい が えが ねん
学ぶ。社会主義リアリズムの絵画を描き、1925年にキュビズ
ム風の《鞭打つ》を発表し認められた。その後メキシコ人画家
のディエゴ・リベラやホセ・クレメンテ・オロスコと親交を
むす しゃかいてき とりく たいしゆう いか かな く のう
結び、社会的なテーマに取組んで大衆の怒り、悲しみ、苦悩な
どを表現した。代表作に《腕》(1929)、《二階付バス》(1926)な
どがある。1951年に帰国し、東京で没した。



石垣記念館所蔵

6 わかやま ちよめいじん 和歌山の著名人

わかやま さまざまな ぶんや ちよめいじん はいしゅうつ めいじいこう かぎ せいじか ひつむねみつ かたやまつ ぶんがくしゃ さとうはる
 和歌山は、様々な分野において著名人を輩出している。明治以降に限っても、政治家の陸奥宗光・片山哲、文学者の佐藤春夫、画家の濱口陽三、など大勢いるが、ここでは、それら著名人の中から以下の人を紹介しよう。

はなおか せいしゅう

■華岡 青洲 [1760 - 1835]

えどじだい げかい きかわ めん ながぐん なてう
 江戸時代の外科医。紀の川に面した那賀郡名手に生まれ、
 きやうと いじゆつ まな こきやう かえ いし ま
 京都で医術を学んだあと、故郷に帰って医師となった。麻
 すいやく かいほつ どりよく かさ まふつさん べつめい つうせんさん ほつめい
 酔薬の開発に努力を重ねて「麻沸散(別名：通仙散)」を発明
 し、1804年、欧米より40年早く、世界で初めて全身麻酔によ
 る乳がん手術に成功した。紀州藩の医師となっても地元を離
 れず、全国から集まった弟子を育てつつ生涯を閉じた。有吉
 ぜんこく あつ でし そだ しやうがい と ありよし
 佐和子の小説『華岡青洲の妻』によって一般にも広く知られ
 るようになり、現在、紀の川市の「青洲の里」に診療所兼医学
 こう しゆりんけん どうじ すがた ふくげんこうかい
 校の「春林軒」などが、当時の姿で復元公開されている。

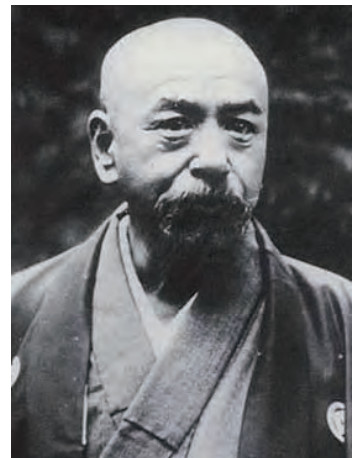


医聖華岡青洲顕彰会所蔵

みなかた くまぐす

■南方 熊楠 [1867 - 1941]

みんぞくがくしゃ せいぶつがくしゃ にほんみんぞくがく そうししゃ ひとり わかやまし
 民俗学者、生物学者。日本民俗学の創始者の一人。和歌山市
 しゆっしん ねん ねん わた ぞくがく
 出身。1886年にアメリカ、1892年にイギリスに渡り、独学
 どうしよくぶつ けんきゆう かつこくご せいふう だいえいはくぶつかん ちやうさ てつだ
 で動植物を研究し、各国語に精通。大英博物館で調査の手伝
 どうしよくぶつがく こうこがく しゆうきやうがく ぞくがく けんきゆう
 いをしながら動植物学・考古学・宗教学などを独学で研究
 し、「Nature」誌などに多くの英論文を寄稿した。1900年帰
 こく いごたなべし ねんきん けんきゆう じゆうじ みんぞくがく ちゆうしん
 国、以後田辺市で粘菌の研究に従事しながら民俗学を中心と
 ぼうだい ちよさく のこ
 する膨大な著作を残した。



南方熊楠顕彰館(田辺市)所蔵

はまぐち ごりよう

■濱口 梧陵 [1820 - 1885]

じつぎょう か しゃかいじつぎょう か にほん だいいょう ちよう みりよう しょう ゆ

実業家・社会実業家。日本を代表する調味料である醤油は、

わか やまけん ゆ あさ う はなぐち ごりよう おお てしょう ゆ じようぎょう じよう

和歌山県湯浅で生まれたが、濱口梧陵は、大手醤油醸造業の
いえ つ がっこう つく さまざま しゃかい じぎょう つ

家を継ぎ、学校を作るほか様々な社会事業に尽くした。また、
せい じ か せい ふ ようしよく つと わか やまけん ぎ かい しょう ぎ

政治家として政府の要職を務めたり、和歌山県議会の初代議
ちよう つと ねん おうべい しぎつちゆう

長を務めたりした。1885年、欧米視察中に、アメリカ・ニュー
ーヨークで死亡した。1854年11月5日、地震による津波が

しゆうらい じぶん た わらやま ひ たかだい じんじや

襲来したとき、自分の田の藁山に火をつけて高台の神社へ
むらびと ゆうどう ひ なん いのち すく えが

村人を誘導避難させて生命を救った。このエピソードを描い
た『稲むらの火』の物語は広く知られ、国連は11月5日を「世界

つ なみ ひ にんてい ざい りよう し ざい どう つ

津波の日』に認定している。さらに、梧陵は、私財を投じて、津
なみ だげき う こきよう ふっこう つ な

波により打撃を受けた故郷の復興に尽くし、長さ600メー
たか さ 5メートルの ていぼう きづ ていぼう ねん

ル、高さ5メートルの堤防を築いた。この堤防は、1946年の
おお つ なみ さい むら まも

大津波の際に村を守った。

うえしば もりへい

■植芝 盛平 [1883 - 1969]

ぶ どう か あい き どう そう し しゃ た なべ し しゆっしん おきな ころ ぶ どう はげ

武道家、合気道の創始者。田辺市出身。幼い頃から武道に励

み、19歳で修行の旅に出て柔術や銃剣術、柔道などを学び独
さい しゆぎょう たび で じゆうじゆつ じゆうけんじゆつ じゆうどう まな どく

自の武術を習得。1919年京都府に修行道場植芝塾をひらき、
じ ぶ じゆつ しゆうとく ねんきよう と ふ しゆぎょうどうじよううえしばじゆく

「合気武道」を創始した。1944年に「合気道」と改称し精神的
あい き ぶ どう そう し ねん あい き どう かいしやう せいりよくてき

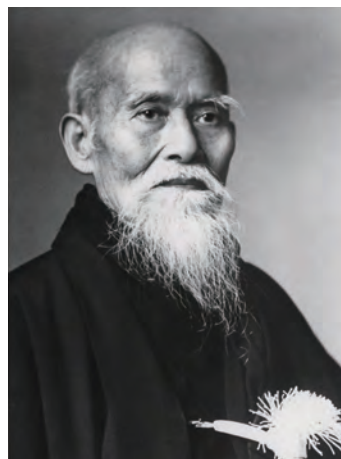
に普及させた。合気道は1952年頃から世界に広がりはじめ、
ふ きゆう あい き どう ねんごろ せ かい ひろ

1956年には公開演武会を開いて各界の大使や公使を招待
ねん こうかいえん ぶ かい ひら かくかい たい し こう し しょうたい

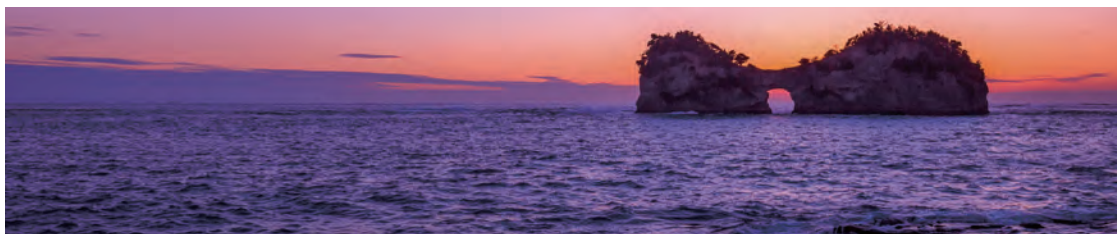
し、合気の武術として完成した姿を一般に披露した。



国立国会図書館「近代日本人の肖像」



植芝盛平記念館所蔵



7 和歌山のお祭り・行事

和歌山には海や山があり、それぞれの地域でさまざまなお祭り・行事が季節によって行なわれている。なかでも伝統的なお祭り・行事では、人びとは地域によって農作物の豊作や海産物の大漁などを祈願する。

■淡嶋神社の雛流し

南海加太線加太駅から西へいくと淡嶋神社がある。初めて訪れた人は、境内に並べられた無数の人形に驚くかもしれない。淡嶋神社ではこれまで大切にされてきた人形が供養されている。この淡嶋神社では3月3日に雛流しが行なわれる。日本では、3月3日を上巳の節句として、水辺でのお祓いの行事を行なう習わしがある。これは中国での習慣が日本に伝わってきたものである。日本では人形に罪や穢を移して流す儀礼として行なわれている。淡嶋神社に奉納された集まった人形たちは、毎年3艘の船にたくさん乗せられ、奉納した人達の身代わりとなって、罪や穢を背負い、海の彼方へと消えていく。

■和歌祭

1622年、紀州藩の初代藩主徳川頼宣は、景勝地・和歌の浦に、父・徳川家康をまつる東照宮を創建した。和歌祭は、和歌山を代表する伝統ある紀州東照宮の祭りとして、毎年5月の家康の命日に近い日曜日、盛大に開催されている。紀州東照宮の108段の石段からの勇壮な神輿おろしにはじまり、さまざまな衣装を着けた人びとの行列がつづく。芸能では母衣や雑賀踊り、御船歌などいろんな芸能も見ることができる。

■和歌祭の唐人

風流でにぎやかな和歌祭の行列には、和歌山大学の留学生も、地域の人びとの支援で、毎年参加している。なかでも和歌祭の唐人は和歌山大学の留学生によって2017年に352年ぶりに復興されたものである。約400年前の日本で唐人は、外国人の総称であり、当時日本に多く来訪していた南蛮人(スペイン・ポルトガル人)を日本人が真似て和歌祭に出したものである。

きしゅう ぶし
■紀州おどり「ぶんだら節」

紀州おどり「ぶんだら節」は毎年8月、10万人をこえる人出でにぎわう大イベントとして行われている。1969年、和歌山市の誕生80周年を記念して、黒潮を思わせる躍動感あふれる民謡と踊りが作られ、「ぶんだら節」と名付けられた。「ぶんだら」の「ぶん」は、江戸時代の紀州の豪商・紀伊国屋文左衛門が語源となっている。和歌山大学の留学生も、毎年楽しみながら参加している。



画像提供1：公益社団法人和歌山県観光連盟 2-3：『マイの和歌山大学留学（2013年版）』 4-5：個人撮影

8 わかやまけんまつぎょうじ 和歌山県のお祭り・行事

伝統ある文化には、伝統あるお祭りがつきものである。歴史の古い和歌山には、古くから続くお祭りがいくつもある。ここでは、国の重要無形民俗文化財やユネスコ無形文化遺産に登録されているお祭り・行事をいくつか紹介する。

■おとうまつ しんぐうし 御燈祭り(新宮市)

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部である神倉神社で毎年2月6日に行われる勇壮な火祭であり、国の重要無形民俗文化財に指定されている。お燈祭の祭礼に参加できるのは男子に限られ、参加者は一週間前から精進潔斎を続けなければならない。精進潔斎の期間中は口にするものも、白飯、かまぼこ、豆腐など白い物に限られ、齋戒沐浴につとめなければならない。当日は白装束に荒縄を締め約2000人の「上り子」と呼ばれる男子が御神火を移した松明を持ち、神倉山の山頂から538段の急峻な石段を一気に駆け下りる。

■くまの なちたいしやれいたいさい なち おうぎまつり なちかつうらちよう 熊野那智大社例大祭/那智の扇祭(那智勝浦町)

熊野三山のひとつ、熊野那智大社にて毎年7月14日に行われる祭りで、別名「扇祭」や「那智の火祭り」として有名であり、国の重要無形民俗文化財に指定されている。熊野那智大社から御滝前の飛瀧神社への年に一度の里帰りの様子を表したもので、十二体の熊野の神々を、御滝の姿を表した高さ6mの十二体の扇神輿に移し、御本社より御滝へ渡御をなし、御滝の参道にて50kg～60kgの十二体の大松明でお迎えし、その炎で清める神事である。燃えさかる50kg以上もある大松明12基を担いだ男たちは、石段を上って扇御輿を先導して滝本に下る。重さ約50kg以上もある大松明の炎が参道いっぱいになら舞する光景は圧巻である。

■なち でんがく なちかつうらちよう 那智の田楽(那智勝浦町)

前述した熊野那智大社例大祭(7月14日)に熊野那智大社に奉納される民俗芸能で、国の重要無形民俗文化財とユネスコの無形文化遺産に登録されている。伝承では14世紀ごろに、京都の田楽法師が伝えたものといわれる。芸能次としては、「大和舞」「田楽舞」「田植舞」、次いで扇神輿の渡御、大松明行事、御滝本祭とあって、続いて「田刈舞」が演じられ、やがて還御祭となって

おおよその行事次第を終わる。このうち田楽舞は、シテテン、ビンザサラ、太鼓、笛の四役十一人によって行われ、乱声、鋸齒、八拍子など二十余曲の古風な演技法が伝えられている。

■花園の御田舞(かつらぎ町)

高野山の奥地の有田川上流の溪谷に沿った花園村に伝承されているこの御田舞は、2月の初春の予祝行事である田遊びの一つである。農作業の一年間の過程(田打ちから収穫まで)を古風な歌と踊で演じて、その年の豊穰を祈るとい形式である。一年の豊作を祈願して、「春鍬はそよんな…」など中世歌謡が歌われるなか、田起こしから、早乙女の田植え、収穫にいたる農作業の様子が3時間以上にわたって演じられる。



画像提供1-2：公益社団法人和歌山県観光連盟 3-4：文化遺産オンライン(文化庁)

1～8の注

1 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」

【古代】日本史の時代区分には諸説あり、以下は一般的な区分である。日本史では、古代は、全国的な政権が生まれ、近畿地方に都を置いて天皇と貴族が全国を統一支配した時代(～12世紀)。

【熊野三山】全国にある熊野神社の総本社である熊野本宮大社に、熊野速玉大社、熊野那智大社を加えた3神社。仏教との融合で、寺院のように山で数える。

【大峰山】奈良県南部にある険しい山で、山岳宗教の修行の場として知られる。

【皇族】天皇の親族

【蟻の熊野詣】熊野信仰の盛期には、多くの巡礼者が、アリの列のように続いた。

【最澄】(767-822)空海と共に中世初期を代表する僧。天皇の命で中国の唐に渡って仏教を深め、帰国して京都の北東に位置する比叡山に延暦寺を建てて、日本天台宗の開祖となる。

【空海】(774-835)中世を代表する僧。最澄と共に唐に渡り、帰国して高野山に金剛峯寺を開き、日本真言宗の開祖となる。詩文にも優れ、弘法大師の名で信仰の対象にもなる。

2 古典文学・古典芸能—和歌浦と道成寺—

【奈良時代】奈良に都があった時代(8世紀)。中国にならって天皇を中心にした国家体制が整備され、都に大きな寺院や大仏が建造された。また、歴史書「古事記」「日本書紀」も編纂された。

【平安時代】京都の平安京が都であった時代(9～12世紀)。天皇と貴族の支配が長く続き、独自の王朝文化が華開き、「源氏物語」などを産むが、次第に地方の勢力が強くなり争乱を迎える。

【今昔物語集】平安時代末期の書(全31巻)。海外も含めて多くの物語が漢字カナ混じり文で書かれているが、作者は不詳。全てが「今昔」と始まるので、「今昔物語集」と通称される。

【万葉集】7世紀後半から8世紀後半にかけて、国家事業として編纂された、全20巻の歌集。天皇から農民まで幅広い作者の歌が約4500首収められている。漢字を表音文字として使っている。

【紀貫之】(868?-945?)平安時代を代表する歌人。天皇の命による「古今和歌集」の中心選者で仮名の序文を執筆。また「土佐日記」をひらがなで書き、女流かな文学の発展に貢献した。

【道成寺縁起物語絵巻】和歌山県を流れる日高川の大蛇伝説を描いた室町時代の絵巻のこと。

【観阿弥・世阿弥】室町前期の能役者・能作者。息子である世阿弥とともに能を大成させた。

【狂言】日本の古典芸能。主として科(しぐさ)と白(せりふ)によって表現される喜劇。

【出雲の阿国】安土桃山→江戸時代初期、歌舞伎の創始者とされる女性。出雲大社の巫女と言われているが詳細は不明。

3 最後の共和国—根来衆と雑賀衆—

【中世】日本史では、武士政権が関東に出現し、後京都を都とするが、次第に各地の武將が力をつけて戦乱の中から全国統一に向かう時代(13～16世紀)。

【戦国時代】中世の終わり、全国支配権を握ることを目指して、有力武將が争った時代(15C後半～16C半ば)。統一を成し遂げた信長、秀吉の時代(安土桃山時代)に続く。

【ルイス・フロイス】(1532-97)ポルトガルの宣教師。信長、秀吉とも会見して布教を許されるが、後秀吉の方針返還で遠ざけられる。執筆した「日本史」は、日本史研究の貴重な資料。

【惣国一揆】 惣は中世日本における自治的共同組織。一揆は、一つになって目的を達成しようとする集団またはその運動。惣国一揆は、中世後期、大名支配によらない一国規模の自治的な共同組織。

【織田信長】 (1538-1582) 戦国時代の動乱を終わらせ全国支配を進めた武将。外国交易も含め商業活動を促進しつつ時代を変えようとしたが、部下に暗殺される。

【豊臣秀吉】 (1537-1598) 仕えていた信長の死後、最高権力者となる。大阪城を築き、全国支配体制を整備したが、朝鮮半島に侵攻して敗退し、死後の安定した権力体制を作れなかった。

【民衆に支えられた宗教】 家に庇護されその安泰を願う古代の仏教に対して、古代末期の争乱を経て中世になると、浄土真宗や日蓮宗をはじめとして、万人救済をうたう新仏教が民衆の間に支持を広げた。

【僧兵】 古代から近世にかけて、大きな経済力をもつ大寺院では、僧兵と呼ばれる自衛武装集団をもった。根来寺には約1万人の強力な僧兵がいたといわれる。

【本願寺】 1570年代、信長は、最大の武装信徒集団であった浄土真宗一揆を各地で撃破。一揆衆は強固な城郭を築いた大阪の本願寺に立てこもって戦ったが、和議を結び宗主は雑賀に退いた。

【刀狩令】 戦時には兵士となっていた百姓(農民)に、以後武器の所持を禁じて農耕にのみ従事させる命令で、兵士と農民を分離した。紀州での刀狩令の後、1588年に全国的な令を発する。

【百姓】 時代によって意味が変わるが、貴族、僧侶、武士等を除く、農民を中心とする庶民をいう。

4 将軍が育った和歌山城

【近世】 戦乱が収まり、江戸(現東京)に本拠を置いた徳川家の武士政権(幕府)が各藩を支配し、内政中心のほぼ安定した体制が約260年続いた時代(江戸時代)(17世紀-19世紀後半)。

【明治維新】 外国の開港圧力をきっかけに政治的混乱が起こり、西南の大藩を背景にした倒幕派の武士たちが天皇をたてて徳川家支配を武力で倒し、近代国家をスタートさせた政変(1868年)。

【近代】 日本史では、明治維新後、西欧的な産業と政治体制を整えて帝国主義的な大国となり、戦争を繰り返した時代。一般には、太平洋戦争敗戦以後を「現代」として区別する。

【天守閣】 城の中心に置かれる高い建物。

【戦争で炎上】 第二次世界大戦の末期、アメリカ軍は全国で空襲を繰り返した。和歌山市も1945年7月に大空襲を受け、中心部が壊滅。多くの死者を出し、和歌山城もほとんどが炎上した。

【徳川家康】 (1543-1616) 秀吉の死後、豊臣方勢力との戦いに勝利し、江戸に幕府を開いて、徳川家が将軍(征夷大将軍)として各藩の藩主を通して全国を支配する「幕府-藩」体制を確立した。

【御三家】 将軍職は、家康の直系子孫に引き継がれたが、家康の10男頼宣の家系である紀州徳川家を含む三家が、徳川本家を支える格を担った。

【吉宗】 (1684-1751) 紀州藩主から将軍となり、財政改革をはじめ幕藩体制を立て直した名君とされる。ただし、増税による百姓一揆の頻発や、儉約強制による経済や文化の停滞を招いた。

【享保の改革】 幕府財政の悪化を救うため、米からの税収の増加や新田開発を進め、官僚制度や司法制度の改革、その他多くの社会政策を実施し、後の改革と合わせて江戸の三大改革とされる。

【西の丸】 城郭内の各地域を、本丸、二の丸、西の丸、などと呼ぶ。

【城郭】 城の区域。現在の和歌山城公園は最盛期の4分の1ほどで、現在県庁、市役所をはじめとする公共施設がある周辺地域も、もとは城郭内であった。

【国史跡】 国が、歴史的価値が高く保護すべきものと指定した建物など。

【城下町】 城を中心に、家臣の武士の他、商工業者などが集住して発達した市街地。和歌山では、城の南の本町筋が商業地として発展し、近代になっても和歌山市の繁華街として栄えた。

【日前宮】 JR和歌山駅近くにある、古代紀伊国第一の格式をもつ神社。

5 和歌山の芸術家たち

【佐藤春夫記念館】 佐藤春夫が晩年に過ごした東京の邸宅を移築した記念館で、佐藤春夫の詩集、小説、随筆の初版本や絵画作品などを展示。住所：和歌山県新宮市新宮1 HP: <http://www.rifnet.or.jp/~haruokan/>

【有吉佐和子記念館】 有吉佐和子が住んでいた東京の邸宅を移築した記念館で、2022年6月にオープンしたばかり。書斎や茶室が見学できるほか、作品に関する貴重な資料を展示。住所：和歌山県和歌山市伝法橋南ノ丁9番地 HP: <https://ariyoshi-sawako.jp/>

【中上健次コーナー】 新宮市の丹鶴ホール4階図書館内にある資料コーナーで、写真資料や愛用のトランク、手書き原稿などを展示している。住所：和歌山県新宮市下本町二丁目2番1号 HP: <https://www.city.shingu.lg.jp/info/44>

【石垣記念館】 石垣栄太郎氏の画業を後生に伝えようと、妻の綾子女史が私財を投じて建設し、太地町へ寄贈した記念館。油彩、デッサン等のほか愛用の品々を展示している。住所：和歌山県東牟婁郡太地町太地2902-79 HP: <https://taiji-kanko.jp/facilities/ishigaki-memorial-museum.html>

【和歌山市立博物館】 郷土和歌山の歴史・文化遺産に関する市民の理解と認識を深め、教育・文化の発展に寄与することを目的とした歴史系博物館。住所：和歌山県和歌山市湊本町3丁目2番地 HP: <http://www.wakayama-city-museum.jp/gaiyo.html>

【和歌山県立近代美術館】 和歌山県にゆかりのある作家のコレクションが豊富なほか、近代版画史を飾る和歌山出身作家も多いことから、現在では国内でも屈指の近・現代版画コレクションを誇っている。住所：和歌山市吹上1-4-14 HP: <https://www.momaw.jp/>

6 和歌山の著名人

【藩医】 藩の医師。青洲の名声により、紀州藩では、青洲を藩主の担当医師(侍医)として迎えようとしたが、青洲は藩医となっても、患者や門人のために名手を離れなかった。

【春林軒】 麻酔手術成功後、患者だけでなく、青洲の外科術を学ぼうと多くの門人が集まり、1804年に診療所兼医学校「春林軒」が建てられた。

【醤油】 日本の代表的な発酵調味料。発祥については、南宋から帰った僧が金山寺味噌の製法を紀州湯浅の村民に教え、味噌の上澄みを調味料としたのが始まりだという説が有力である。

【1854年の地震と大津波】 11月4日、5日と連続で大地震が発生、安政東海地震、安政南海地震と名付けられた。紀伊半島沖が震源地で、マグニチュード8クラスの地震と津波により、大きな被害をだした。

【堤防】 広村堤防には梧陵をたたえる感恩碑が建てられ、広川町では毎年11月に「津波祭」を行い、梧陵の遺徳をしのぶとともに災害の記憶と災害への備えを伝えている。

【1946年の地震と大津波】 安政南海地震と同じく、二つのプレートがぶつかる南海トラフ(地溝)を震源地とする大地震で、南海地震(昭和南海地震)と呼ばれる。

【粘菌】 植物と動物の性質をあわせ持つ生物。

【合気道】 古流柔術の流れをくむ武術。関節の弱点を利用した押さえ技や投げ技を特色とする。

【道の駅 青洲の里】 和歌山が誇る医聖・華岡青洲ゆかりの地につくられた道の駅で、華岡青洲の偉業を学べる資料がある展示室や、住居兼診療所である「春林軒」が見学できる。住所：和歌山県紀の川市西野山473 HP: <https://seishunosato.com/>

【濱口梧陵記念館】「稲むらの火の館」濱口梧陵記念館と津波防災教育センターからなる。梧陵の生家である記念館では、生い立ちから晩年までの足跡をたどることができる。住所：和歌山県有田郡広川町広671 HP：<https://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

【南方熊楠顕彰館】南方熊楠顕彰館は、南方熊楠邸の隣に建設され、熊楠が遺した25,000点以上の蔵書・資料等を保存するとともに広く公開し、熊楠研究・情報発信の拠点となっている。熊楠が後半生を過ごした邸宅も観覧できる。住所：和歌山県田辺市中屋敷町36番地 HP：<https://www.minakata.org/>

【南方熊楠記念館】南方熊楠の生涯とその偉大な業績が多くの資料で紹介されており、少年時代に筆写した原稿や書簡類などを年代順に展示している。また、記念館屋上からの眺めも抜群で、田辺湾、神島、円月島、白浜温泉街、遠くは四国まで見通せる。住所：和歌山県西牟婁郡白浜町3601-1 HP：<http://www.minakatakumagusu-kinenkan.jp/>

【植芝盛平記念館】武道館に併設され、盛平翁の生涯や合気道の基本動作を学ぶことのできる映像や盛平翁ゆかりの品の展示コーナーが設置されている。住所：和歌山県田辺市扇ヶ浜2-10 HP：<https://www.ueshibamorihei.com/memorial/>

7 和歌山市のお祭り・行事

【淡島神社】仁徳天皇時代(4世紀末～5世紀前半)に創建されたと伝わる。日本最古の神社のひとつ。

【雛流し】雛(人形)を海に流す行事。

【女の節句】3月3日、女の子の成長を願う日。ひな人形を飾るので「ひなまつり」という。

【命日】ある人が亡くなった日。毎月または毎年と同じ日。

【母衣まわし】和歌祭りでは、武者が戦場で背につけた母衣をまわす。

【紀伊国屋文左衛門】紀州出身の豪商として有名だが、伝説が多く実像ははっきりしない。

【連】集団で祭りに参加して踊る単位。同じ着物を着て踊ることが多い。

8 和歌山県のお祭り・行事

【熊野那智大社】仁徳天皇5年(317年)に社殿が現在地に移転されたと伝わる。熊野那智の中心に位置づけられる神社。

【松明】松の樹枝の多い部分を束にして、火をつけて灯りとするもの。

【扇御輿】神の宿った扇を、大勢でかつぐ御輿(神の乗り物)にしたもの。

【渡御】御輿を海や川に入れて、神の力を再生する行事。

【田楽】渡来系の民族芸能。ピンザサラを使用し、シンメトリックな隊列で踊る。後に能を取り入れ能楽などに影響を与えた。

9 わかやまけんかんこう 和歌山県観光マップ

わかやまけん きんきちほう なんぶ いち おんだん きこう うつく しぜん とくちよう わかやまけん さまざま とくちよう も
 和歌山県は近畿地方の南部に位置し、温暖な気候と美しい自然が特徴である。和歌山県はエリアにより様々な特徴を持った
 観光地をめぐることができる。今回は、和歌山大学の留学生に人気の高い観光地を紹介する。



かた わかやまし
加太【和歌山市】



わかうら わかやまし
和歌浦【和歌山市】



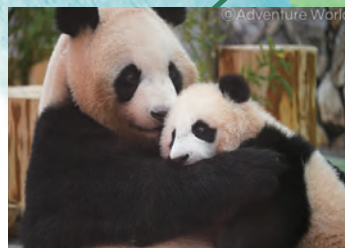
わかやま
和歌山マリーナシティ【和歌山市】



しょうはっしょう ち あさちよう
醤油発祥の地【湯浅町】



しらさきかいがん ち らちよう
白崎海岸【由良町】



しらはまちよう
アドベンチャーワールド【白浜町】





ねこみじいわでし
根来寺【岩出市】



おいしこうげん きみのちやう
生石高原【紀美野町】



どうじやうじ ひたかがわちやう
道成寺【日高川町】



くだ きたやまむら
いかだ下り【北山村】



くまのほんぐうたいしや たなべし
熊野本宮大社【田辺市】



なち たき なちかつらちやう
那智の滝【那智勝浦町】



はしくいわ くしもとちやう
橋杭岩【串本町】



ひゃくさんげんけいこく たなべし
百間山溪谷【田辺市】

画像提供：公益社団法人和歌山県観光連盟、アドベンチャーワールド、北山村観光センター

10 おんせん い 温泉へ行こう！

和歌山県の温泉の歴史は古く、日本最古と言われ1800年以上の歴史を持つ「湯の峰温泉つぼ湯」や飛鳥、奈良朝の時代から多くの宮人たちが訪れた1350年余りの歴史を持つ「南紀白浜温泉」は日本三古湯に数えられる。その他にも和歌山県内全域に様々な温泉地がある。

■わかやま温泉 [和歌山市]

和歌山県の紀北エリアには、色々な温泉が多く点在しており、穏やかな黒潮の海や夕陽を眺める海エリア、四季折々の自然を満喫する山エリアなど魅力もさまざまである。



■南紀白浜温泉 [白浜町]

飛鳥、奈良時代から「牟婁温泉」「紀温湯」の名で知られ、天智・持統天皇など多くの宮人が来泉した温泉。兵庫県の有馬温泉、愛媛の道後温泉と共に「日本三古湯」とされている。



りゆうじんおんせん たなべし
■龍神温泉[田辺市]
 にほんさんだいいびじん ゆし
 日本三大美人の湯として知られて
 いる。弘法大使が龍王の夢のお告げ
 により開いたことが名前の由来と
 言われている。



かわゆおんせん たなべし
■川湯温泉[田辺市]
 かわおんせん
 川がそのまま温泉になっている。
 川原を掘ると温泉が湧き出すという
 全国でも珍しい温泉。11月～12月に
 とくだいろてんぷろせんになぶろつく
 は、特大露天風呂の「仙人風呂」が作
 られる。水着で入浴してもよい。



なんきかつらおんせん なちかつらちやう
■南紀勝浦温泉[那智勝浦町]
 ほん たしゆたやう げんせん も かず けん
 175本もの多種多様な源泉を持ち、その数は県
 下一となっている。南紀白浜温泉と並ぶ、和歌山
 けん だいひやう おんせん ち せ かい い さん とうろく な
 県を代表する温泉地。世界遺産に登録された那
 ちさん なち たきくまのさんざん きよてん
 智山や那智の滝、熊野三山への拠点でもある。



画像提供：公益社団法人和歌山県観光連盟

わかやま ゆうめい II 和歌山の有名なものTOP10

わかやま ゆうめい りゅうがくせい わかやまだいがく がくせいきょうじょくいん にん じっし わかやまだいがく
和歌山の有名なものについて、留学生たちが和歌山大学の学生・教職員192人にアンケートを実施しました。和歌山大学の
ひと えら わかやま ゆうめい しょうかい
人たちが選んだ和歌山の有名なものTOP10を紹介します！

No. 1



みかん

わかやまけん せんさんりょう ぜんこく い ありだ ちほう
和歌山県は、みかんの生産量が全国1位。有田地方は400
ねん れきき でんどう ほん ありだ さんち
年の歴史と伝統を誇る「有田みかん」産地。

No. 2



梅・梅干し

ぜんこく うめ しゅうかくだか やく わり し わかやまけん ひだかぐみ
全国の梅の収穫高の約6割を占める和歌山県。日高郡
なべ町は、梅の最高峰ブランド「南高梅」誕生の地。

No. 3



パンダ

しらほま とう こ う
白浜アドベンチャーワールドでは、17頭の子どもが生まれ
ており、中国以外の動物園での実績としては世界一。

No. 4



和歌山ラーメン

わかやま せんもんてん たいしゅうしょくどう だ とう ち
和歌山県北部で、専門店や大衆食堂で出されるご当地
ラーメン。「中華そば」とも言う。

No. 5



和歌山城

わかやまし あるお城で、とくがわ ごさんけ ひと きしゅうほん きしゅう
和歌山市にあるお城で、徳川御三家の一つ紀州藩紀州
とくがわ け きまじょう べつめい とらふすじょう い
徳川家の居城。別名「虎伏城」とも言う。

No. 6



グリーンソフト

グリーンソフトは、1958（昭和33）年から和歌山市のお
茶屋「玉林園」が製造する、国産茶葉のみで作った抹茶ソ
フトクリーム。



クジラ

わかやまけん みなみ ひろ くまの なだおきあい ふる ほげい
和歌山県の南に広がる熊野灘沖合は、古くから捕鯨が
おこなわれていたエリアのひとつ。現在でもホエールウォッ
チングが楽しめる。



紀州犬

ねん あきたけん か いけん つ てんねん き ねんぶつ してい
1934年に秋田犬や甲斐犬に次いで天然記念物に指定さ
れた。



目はり寿司

ソフトボールほどの大きさのため、目を見張りながら大き
な口を開けて食べる様子から名付けられた。



マグロ

にほんじん だいす なま みずあ りよう わ
日本人が大好きなマグロ。「生マグロ」の水揚げ量は、和
歌山県那智勝浦町の勝浦漁港が日本一。

ご当地シンボル・マスコット紹介

わかやまけん
和歌山県のさまざまなシンボル・マスコットを紹介します。

たなべえ



武蔵坊弁慶をモチーフ
として田辺市の魅力を
PRするキャラクター。

わだにゃん



和歌山大学に住みつく
ネコをモチーフにした
マスコットキャラクター。

たま駅長代理



地域公共交通再生のシ
ンボル。和歌山電鐵貴
志川線のたま駅長代理。

きいちゃん



紀州犬をモチーフにし
た和歌山県PRキャラ
クター。

たけのこまん



山東まちづくり会のた
けのこ型のマスコット
キャラクター。

<執筆者・協力者一覧>

■企画

『マイの和歌山大学留学 2022』制作プロジェクトチーム

長友文子(代表) / 松下恵子 / 嶋本圭子 / 南方里衣子 / 永野基綱

■執筆者・執筆協力者 (50音順、敬称略)

第1部：日本語で話す

嶋本圭子 和歌山大学 日本学教育研究センター 非常勤講師 (担当：1, 2, 5, 7, 8, 10)
長友文子 和歌山大学 日本学教育研究センター 教授 (担当：1, 3, 4, 9)
松下恵子 和歌山大学 日本学教育研究センター 特任助教 (担当：8 および編集校正)
南方里衣子 和歌山大学 日本学教育研究センター 非常勤講師 (担当：1, 2, 5, 7, 8, 10)

第2部：和歌山を学ぶ、和歌山で遊ぶ

海津一郎 和歌山大学 教育学部 教授 (担当：3)
長友文子 和歌山大学 日本学教育研究センター 教授 (担当：6)
永野基綱 和歌山大学 名誉教授 (担当：ようこそ和歌山へ！, 1, 2, 3, 4)
藤本清二郎 和歌山大学 名誉教授 (担当：4)
松下恵子 和歌山大学 日本学教育研究センター 特任助教 (担当：2, 5, 6, 8, 9, 10, 11 および編集校正)
吉村旭輝 和歌山大学 紀州経済史文化史研究所 准教授 (担当：7)

■レイアウト・デザイン

Design Office Birds <https://www.webirds.jp/>

■協力 (50音順、アルファベット順、敬称略)

写真・画像

アドベンチャーワールド / イオンモール和歌山 / 医聖華岡青洲顕彰会 / 植芝盛平記念館 / 大田区立龍子記念館 / 株式会社玉林園 / 北山村観光センター / 紀の川市生涯学習課 / 近代日本人の肖像(国立国会図書館) / グリーンプラネットハウス(株式会社 エス・ティー・ワールド) / 公益社団法人和歌山県観光連盟 / 山東まちづくり会 / 新宮市立佐藤春夫記念館 / 惣光寺 / 太地町立石垣記念館 / 田辺商工会議所 / 中上健次顕彰委員会 / ニューヤマザキデイリーストア和歌山大学店(図書館内) / 文化遺産オンライン(文化庁) / 孫市の会 / 南方熊楠顕彰館(田辺市) / MEGAドン・キホーテ和歌山次郎丸店 / レストランフルール / 和歌山県知事室広報課 / 和歌山県庁企画部文化学術課文化企画班 / 和歌山市産業交流局文化スポーツ部文化振興課 / 和歌山市立有吉佐和子記念館 / 和歌山市立博物館 / 和歌山大学広報室 / 和歌山大学国際交流課 / 和歌山大学消費生活協同組合 / 和歌山大学保健センター / 和歌山電鐵株式会社 / 和歌山バス株式会社

写真撮影協力：和歌山大学留学生

FATIMAH AL-ZAHRA BINTI AZMAN / GONCALVES SANTOS GUILHERME / JOME CHENG CHEN GIYOK PENG / LE THU MINH / MARYAM SABRINA BINTI IZIHAN / MAY THU MYO AUNG / MUHAMMAD AZHAR HAKIMI BIN AMIRUDIN / NURUL 'IZZAH BINTI KHAIIRUL ANWAR / SITI AMIERA AMANI BINTI ALIAS / THANUSHI ABEYSEKARA / TRAN Y THI XUAN / 蔡宜庭

アンケート調査協力：和歌山大学留学生

BABADAG SELIM / BATKHUREL AMINSARNAI / DUONG VI HUNG / ESHPULATOV FERUZ ABDUNABI UGLI / GONCALVES SANTOS GUILHERME / LE THU MINH / MAY THU MYO AUNG / NGUYEN THAM THI HONG / THANUSHI ABEYSEKARA / ULZISAIKHAN MYAGMARDASH / 蔡宜庭 / 趙セイ悦

マイの和歌山大学留学 2022

Mai Studying abroad at Wakayama University 2022

2023年1月20日 第1版第1刷発行

著作・監修 和歌山大学日本学教育研究センター
『マイの和歌山大学留学 2022』制作プロジェクトチーム

発行所 和歌山大学日本学教育研究センター
〒640-8510 和歌山市栄谷 930
<https://www.wakayama-u.ac.jp/cjs/>
TEL 073-457-7524 FAX 073-457-7520
Email: cjs@ml.wakayama-u.ac.jp

デザイン 冊子制作 Design Office Birds

©2023 Center for Japanology Studies, Wakayama University

PDF版 ISBN : 978-4-9912944-1-9



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学

